

女性だけの分工場始動

小野谷機工 越前市

生産力向上へ

効率化、労働環境探る

タイヤサージ機械製造販売の興合機工(本社越前市家久町、宇田公昭社長)は、本社西側の女性だけのチームで作業する分工場を稼働した。タイヤを脱脂する「タイヤサージ」の部品や「タイヤヘッダー」などの組立を担当。生産力向上のため2028年までに同市内で着手予定の第2工場設計にむかすため、作業の効率化や1人当たりの生産性を高めるための環境づくりを探る。

(前田 暁)



家久分工場で組み立てなどに取り組む女性社員ら
—越前市家久町—

同社の本社工場は、大型車や商用車のタイヤサージなどの生産部門があり、大型部品の製造から

組み立てまで行っている。重労働が中心で、車庫の中心は男性社員。女性もA・Cなど比較的重労働の組み立てを担当していた。約80人の同様に女性社員は15人ほどで、10年前はほとんどいなかったが、徐々に増加している。同社は生産力を高めるために新工場を建設する中で、人手不足の中で、多様な人材がハート・ソート面で働きやすい

環境を分工場を検討することにした。

分工場は本社西側の木材会社の建物を利用して、1年間は試行的に取り組み、成果を踏まえて必要などを検討する。

現在は機械や部品の組立てなどに必要な機器類を本社工場から移動し、女性社員が作業する。組立て部品は本社工場へ運び、大型部品は組付に送られる。分工場1部作業が移ったことで、本社工場の作業スペースが広がりが生まれ、これまで、生産性が従来の7割ほど上がると試算している。

実際に作業をしているA・C係主任の小笠原美穂(43)は、静かである中、女性ならではの強み、人柄をうまく生かしながら取り組める仕組みをつくり、生産性を高めていきたいと話した。

同社は高度な技術人材も含め、さまざまな人材を必要とする環境づくりに取り組んでいる。宇田社長は、女性の強みや自

分を生かすことができる部分があることを期待しつつ、今後も女性を取り組める環境の拡充を図る。宇田社長は、女性の強みや自

分を生かすことができる部分があることを期待しつつ、今後も女性を取り組める環境の拡充を図る。宇田社長は、女性の強みや自

分を生かすことができる部分があることを期待しつつ、今後も女性を取り組める環境の拡充を図る。宇田社長は、女性の強みや自

分を生かすことができる部分があることを期待しつつ、今後も女性を取り組める環境の拡充を図る。宇田社長は、女性の強みや自